

POINT&K.O.ルール・試合規定

★今回よりルールは改正されました

1 試合時間

	本 戦	延 長	再延長(ポイント先取)
小学生・中学生	1:30	1:00 ※マスト	1:00 ※決勝のみ
高校生・一般女子・シニア	2:00	1:30 ※マスト	1:30 ※決勝のみ
一般男子	2:00	2:00 ※マスト	2:00 ※準決勝から

2 審判・勝敗

- ・主審1名、副審2名(可動式)とする。一般決勝戦は副審4名(固定式)とする。
- ・判定の場合、主審、副審共に持ち点は1点とする。試合中のポイント等の判断は主審が最終決定を行う。
- ・勝敗は一本勝ち、ポイント差(3ポイントで一本勝ちとなる)、判定勝ち、反則等による失格ないし棄権もしくはドクターストップにより決定される。
- ・一本勝ちもしくはポイント差がある場合、主審は副審の旗揚げを待たずに勝敗を宣告する。
- ・ポイント差(ポイント奪取もしくは反則減点)のない場合、主審、副審の過半数の判定で決定する。
- ・試合中、主審を中心とし審判員同士で協議を行うことができる。
- ・審判長及び審議委員は審判員からの要請や不備があった場合、審議を行う。最終決定は審判長の裁定によるものとする。

3 一本勝ち

- ・反則箇所を除き、突き、蹴りのダメージによって相手を倒した場合。
- ・戦意を喪失した場合。
- ・ポイント差3となった場合(ポイント3奪取、もしくはポイント2で相手方に減点1の場合等)。

4 ポイント

- ・上段への蹴りが的確にクリーンヒットした場合。
★中段攻撃のポイントは「テクニカルポイント」と「ダメージポイント」のふたつを採用する。
- ・ノーガードの中段に蹴りがクリーンヒットし、相手の動きが止まった場合(ダメージポイント)。
または加撃後すぐに間合いを外し、返し技をもらわなかった場合(テクニカルポイント)。
※蹴り足をつかみ取られたり、すぐに反撃をもらった場合は無効。
- ・突きによる攻撃ではテクニカルポイントは採用されない。ダメージを与えるダメージポイントのみ。
- ・攻撃により倒れた相手に対し瞬時に下段突きを決めた場合(仕掛けた相手が自ら転倒し、そこにタイミング良く下段突きを決めた場合も同じ)。
- ・ガードの上からの攻撃でも完全に体勢が崩れる、もしくはダメージにより動きが止まった場合。

5 反 則

- ・金的への攻撃。手技、肘による顔面への攻撃。頭突き。つかみ。投げ。抱え込み。
※蹴りの受け流しは、すぐに放して攻撃につなげた場合有効
- ・押し(掌低、拳、肩、腹等による押しはすべて反則)。
- ・頭をつけての攻撃。
※ジュニアルール(小学生・中学生)ではヘッドガードが触れ合ったら分ける
- ・背面からの攻撃。倒れた相手への加撃。
- ・故意に場外へ出た場合。かけ逃げ(故意による転倒、当てる意思のない技等)。
- ・審判の指示に従わない場合。試合中、相手に対する非礼な態度やしぐさをとること。
- ・試合終了後の雄たけびやガッツポーズは禁止。
- ・反則には注意。注意2で減点1(相手側にポイント1)。注意4で失格。
但し、悪質な故意の反則と判断した場合、即失格となることもありうる。
※ジュニアルールでは下段回し蹴り、上段膝蹴りは反則。
※高校生以上の下段回し蹴り、上段膝蹴りは有効。

このルール案内にない事態が発生した場合は、必要に応じて役員が協議を行い審判長が最終決定をする。

★主な改正点は赤字、およびアンダーラインが引かれています。